

保幼小接続スタンダードについて

幼児期は、子どもたちが健やかに育ち、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、生活や遊びの中での直接的・間接的な体験を通して、よりよく社会で生きていくための基礎となる力を獲得していく時期です。また、児童期は、各個人が有する能力を伸長するとともに、社会において自立的に生きるための基礎を培い、社会の一員としての基本的な資質を養う時期と言えます。

しかし近年、少子化の進行などを背景に、子どもの育ちが大きく変化しており、基本的な生活習慣の欠如やコミュニケーション能力の低下、自制心や規範意識の希薄化などが課題となっています。また、小学校に入学した1年生が、幼児期に大きな課題を抱えていなかったにも関わらず、授業中に勝手に教室の中を立ち歩いたり教室から出て行ったりするなど、学校生活への不適応を示す、いわゆる「小1プロブレム」の発生が報告されています。

保幼小接続に向けての基本方針

年度
内に

接続担当者を決定し、接続カリキュラムの準備をします。

- 各校園の担当者を決定します。
- 接続カリキュラムの意義や考え方、ねらいの共通理解を図ります。
- 4月に向けての準備を進めます。

4月
から

全体で取り組む体制を整え、教職員の交流を進めます。

- 5歳児や1年生の担任だけでなく、全教職員で関わります。
- 子ども理解を進めながら、具体的な活動や体験を実施します。

随時

接続カリキュラムの検証・改善を図ります。

- 反省を基に、長期・短期サイクル両方の改善を進めます。
- 接続カリキュラムを改善するために、資料等を蓄積（データベース化）していきます。

随時

子どもの姿を柱に語り合います。

- お互いの教育・保育を理解し、ねらいに即しているか検証します。
- 子どもの育ちを基に、指導方法等について語り合います。

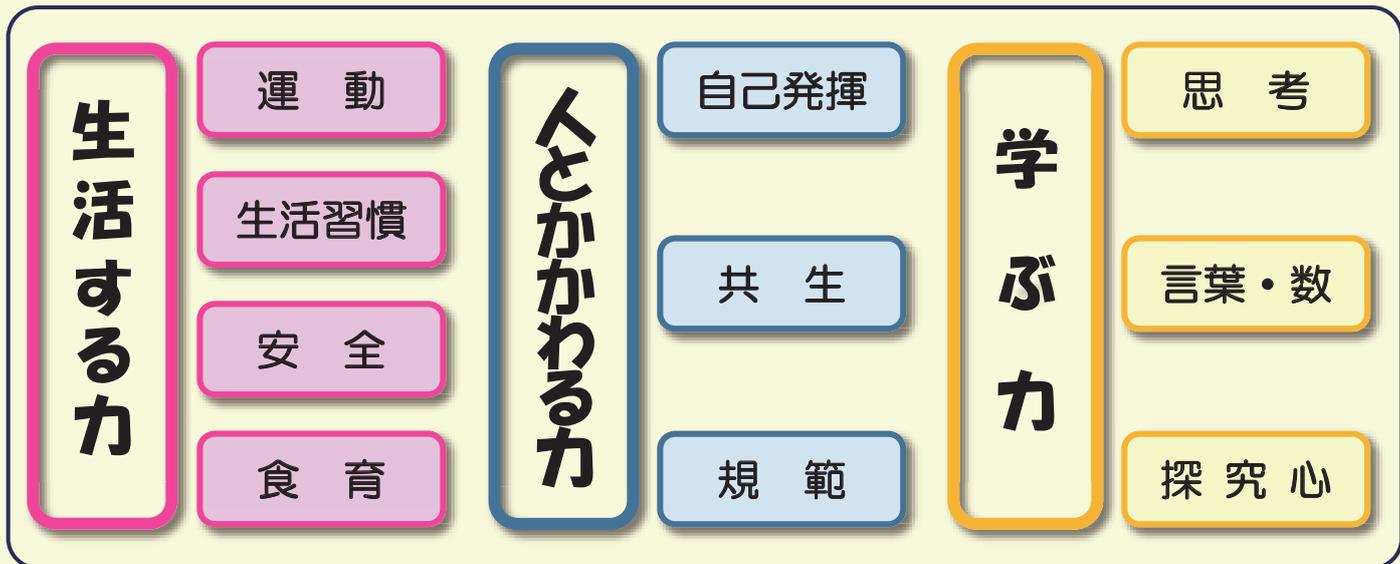
円滑な接続を図るための「接続カリキュラム」作成に向けて

県教育委員会では、幼児教育（幼稚園、保育所、認定こども園での教育・保育）と小学校教育を円滑に接続し、接続期に育てたい「3つの力」を育成する取組を推進するため「保幼小接続スタンダード」（以下、「スタンダード」という。）を作成しました。本スタンダードは、保幼小接続を進めるに当たり、幼児教育・小学校教育それぞれの特徴を示すとともに、子どもの育ちと学びをつなげるポイントを簡潔に記しています。

今後は、各市町村の研修会で本スタンダードを活用して、保幼小の交流の一層の促進を図るとともに、平成30年度を目途に、小学校区単位での「接続カリキュラム」の作成を目指します。

公私立、保幼小の教育方針や教育内容、教育方法の違いを乗り越え、共に高め合う関係性を構築していくことで、心豊かにたくましく未来を拓く子どもを育成していきましょう。

接続期に育てたい3つの力



県教育委員会では、接続期^{*}に育てたい子どもの力を「3つの力」で表し、それぞれにおいて大切にしたい視点を「10の視点」にまとめました。

今後、保幼小接続を更に充実させていくためには、これまで取り組んできたことを生かしつつ、次の一步をどう踏み出すかが重要となります。その際、各学校園で「10の視点」を参考にしながら、育てたい子ども像の共有を図り、「何を、どのようにつなげていくのか」を明確にすることで、保育と教育の連続性を高め、質の向上を図っていきましょう。

※ 接続期…年長児（5歳児）の秋（10月頃）から、小学校1年生の1学期（7月）頃までの入学前後の時期

保幼小接続に向けての3つのステージ

1st STAGE

「お互いのことを知る・分かり合う」

2nd STAGE

「保育者と教師のつながりを深める」

3rd STAGE

「カリキュラムをつなげる」

幼児教育

「遊び」を通して行う総合的な学び

生活する力

周りの人々からの豊かな愛情に支えられ、戸外で元気に遊ぶなど、子どもたちが健康で安全に生活することで、自分のやりたいことに向かって、のびのびと取り組む姿勢が育まれます。

自分ができることを自分から進んでする経験を積み重ねることで、小学校生活における意欲につながります。また、これは将来、社会に出てからも自ら考え、進んで物事を解決しようとする力の基になります。

運動

生活習慣

安全

食育

人とかがわる力

幼児期には、自分が家族や周囲の人々に温かく見守られているという安心感が基盤となり、人を信頼する気持ちや社会のきまりを守ろうとする気持ちが育まれます。また、他の人々と共に活動する楽しさを味わうとともに、葛藤やぶつかり合いの経験を通して、我慢する心や忍耐力、他者への思いやりが育まれます。

さらに、友だちと共通の目的をもって様々な活動に取り組む経験が、小学校教育での主体的・協働的な学習へとつながります。

自己発揮

共生

規範

学ぶ力

子どもたちが、好奇心や探究心をもって、「やってみたいなあ」「おもしろいなあ」と、様々なことに取り組み、「楽しかった!」「できた!」などの充実感や満足感を味わう体験を積み重ねることで、主体的に物事に取り組む意欲や態度、自尊感情が育まれます。

幼児期の豊かな体験の積み重ねが、興味・関心をもって、小学校の学習に取り組もうとする学習意欲につながります。

探究心

思考

言葉・数

の力」と「10の視点」

期

戸外でしっかり体を動かす。

- ・友だちと競い合ったり、ルールを工夫したりして遊ぶ。
- ・遊具や用具の使い方を守りながら、様々な遊びに挑戦する。

生活に必要な活動を自ら行う。

- ・早寝、早起き、朝ご飯などの生活リズムを身に付ける。
- ・身の回りのことを自分でしようとする。

安全に気を付けて行動する。

- ・きまりや約束の大切さに気付き、守ろうとする。
- ・交通ルールを知り、安全に行動しようとする。

先生や友だちと一緒に食べることを楽しむ。

- ・好き嫌いをせず、食事のマナーを守って食べる。
- ・食事を決められた時間内に食べる。

自分の思いや考えを伝える。

- ・自分の思ったことや感じたこと、考えたことを相手に分かるように話す。
- ・先生や友だちの話を最後まで聞く。

目的に向かって、進んで取り組む。

- ・自分でできることは、自分でしようとする。

友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

- ・友だちと積極的にかわり、友だちの思いや考えを感じながら行動する。
- ・共通の目的に向けて、友だちと力を合わせて、粘り強く活動に取り組む。
- ・友だちの頑張りを励ましたり認めたりする。

生活や遊びのきまりを考えたり、守ったりする。

- ・みんなで一緒に使うものを大切に扱う。
- ・良いことと悪いことが分かり、考えながら行動する。
- ・自分がやりたいと思っても、友だちが嫌がることは我慢できる。

周囲の環境に好奇心をもって関わり、考えたり工夫したりして遊ぶ。

- ・自然の不思議さ、面白さ、美しさなどに気付いたり、感触を味わったりする。

様々なことに挑戦する。

- ・分からないことを進んで考えたり調べたりして、繰り返し挑戦しようとする。

自然と触れ合い、様々な事柄に興味・関心をもつ。

- ・四季折々の自然に触れ、自然の美しさや不思議さに気付き、伝え合い、共感する。

いろいろな遊びを通して、試したり、確かめたり、工夫したりする。

- ・いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ・かいたりつくったりすることを楽しみ、作ったもので遊んだり、飾ったりする。

思ったことや感じたことを絵や言葉などで表現する。

- ・絵本や物語などに親しみ、イメージを広げる。
- ・自分なりの思いや願いを込めて、様々な方法で自由に表現する。

生活や遊びの中で、数や図形に興味・関心をもつ。

- ・数量や図形、文字などに関心を持ち、生活や遊びの中に取り入れて楽しむ。

小学校
教育

教科等の学習を中心とした学び

幼児教育

学びの芽生え

質の高い遊びを保証する

- 小学校で学ぶことや体験することを「前倒す」のではなく、「できること」よりも「やりたいこと」、文字や数字を教えるよりも「伝えたい」気持ちが高まるように教育・保育を工夫する。
- 「遊び込む」体験を充実させることを通して、自己調整する力を養う。

円滑な

現状

遊びにどんな意味があるの？
この時間で子どもはどう育ったの？



小学校教師



段差が

3歳

6

自立的な生活の
始まり

自己発揮
自己抑制

協同的な活動

学校生活への
期待

Point!

「接続カリキュラム」の作成で、幼児

小学校教育相互の良さのつながり

小学校教育

自覚的な学び

「教科」「領域」を中心とした学びを豊かにする

- 異なる環境で育ってきた子どもたちを受け入れ、幼児期に培った力を基礎として、学習中心の生活につなげていくよう、指導内容や学習方法を工夫する。
- 1年生を「早く小学生にしよう」とするのではなく、しっかりと個に寄り添いながら、「明日も学校に行きたい!」という意欲や自信を養う。

接続



は...

激しい?



園でできていたことが、どうして学校ではできないんだろう・・・



保育者

歳

12歳

学校生活の始まり

学習への興味・関心

学習の深まり

思春期への移行

教育と小学校教育相互の良さをつなげる



小学校教員

園に参観に行っても、子どもたちは自由に遊んでいるようにしか見えないのですが……。子どもが学んでいるって言われても……。保育者は、一体どんなねらいをもって教育しているのですか？

幼稚園教育要領では、幼児が生活を通して発達していく姿を踏まえ、幼稚園終了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを「ねらい」として示し、そのねらいを達成するために指導する事項を「内容」として、幼児の発達の側面から次の5つの領域*にまとめて示しています。

(※ 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領でも同義)

保育者には、幼児期以降も含めた長期的な視点で子どもの発達や教育を捉え、それを連続性・一貫性のあるものとして見通し、計画・実践することが求められています。子どもを取り巻く環境(ヒト・モノ・コト)を構成することを大切にし、対象に子どもが自発的・意欲的にかかわり、成長できるように配慮します。この援助の下で、子どもたちは楽しいことや好きなことに集中して取り組むことができ、多くのことを学びます。

そのため、保育者は、領域ごとに特定の活動を結び付けるのではなく、相互に関連をもたせながら、幼児が遊びを通して総合的にねらいが達成できるよう、子どもの活動を援助しています。

領域	領域の意義付け
1 心身の健康に関する領域 「健康」	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。
2 人とのかかわりに関する領域 「人間関係」	他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人とかかわる力を養う。
3 身近な環境とのかかわりに関する領域 「環境」	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
4 言葉の獲得に関する領域 「言葉」	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
5 感性と表現に関する領域 「表現」	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

5月



保育者

レンゲ畑で春を

「春の心地よさを友だを通して、友だちに親しから、近くのレンゲ畑に出る自然の中で、心地よさ



カマキリになり

子どもたちは、力て、そのイメージがまっています。



い合う 「幼児教育を知ろう」

実践例：広げよう！ 友だちとのつながりを

気の合う友だちや保育者との関係の中で、少しずつ自分の思いを出し合って遊べるようになってきた5歳児。しかし、子どもたち一人一人の興味・関心は異なっており、友だちとかかわりながら十分遊び込むまでには至っていませんでした。そこで…

感じながら、絵本の世界を味わう

主に「環境」

ちと一緒に感じてほしい」「遊びみを感じてほしい」との願いかけました。子どもたちは、春や解放感を味わっていました。



カマキリに見つかっちゃう！
隠れなきゃ！！



すると、レンゲに隠れようとしている子どもたちが…。

クラスで読んだ1冊の絵本との出会いから、友だちどうして絵本の世界に入り込み、楽しんでいる姿が見られました。



友だちとのかかわりを楽しむ

主に「人間関係」

子どもたちは、自然に触れ合ったことから、実際に「カマキリになりたい」という思いが強くなっていました。その思いをくみ取り、遊びが広がるような環境を準備したところ、友だちと協力しながらカマキリになろうと工夫を重ねていきました。

オオカマキリだぞぉ！

きって遊ぶ！

主に「人間関係」「表現」

マキリになりきることで、どんどん遊びのイメージを広げていきました。そして共有されていくことを通して、友だちとつながる心地よさを感じ、安心感が深



表現する楽しさを味わう

主に「表現」

子どもたちの「絵本の世界を表現したい！」という思いに心を寄せ、保育室の掲示物を制作する活動につなげるための環境を整えたところ、子どもたちは自分たちがイメージする世界を豊かに表現しました。

理解のPoint!

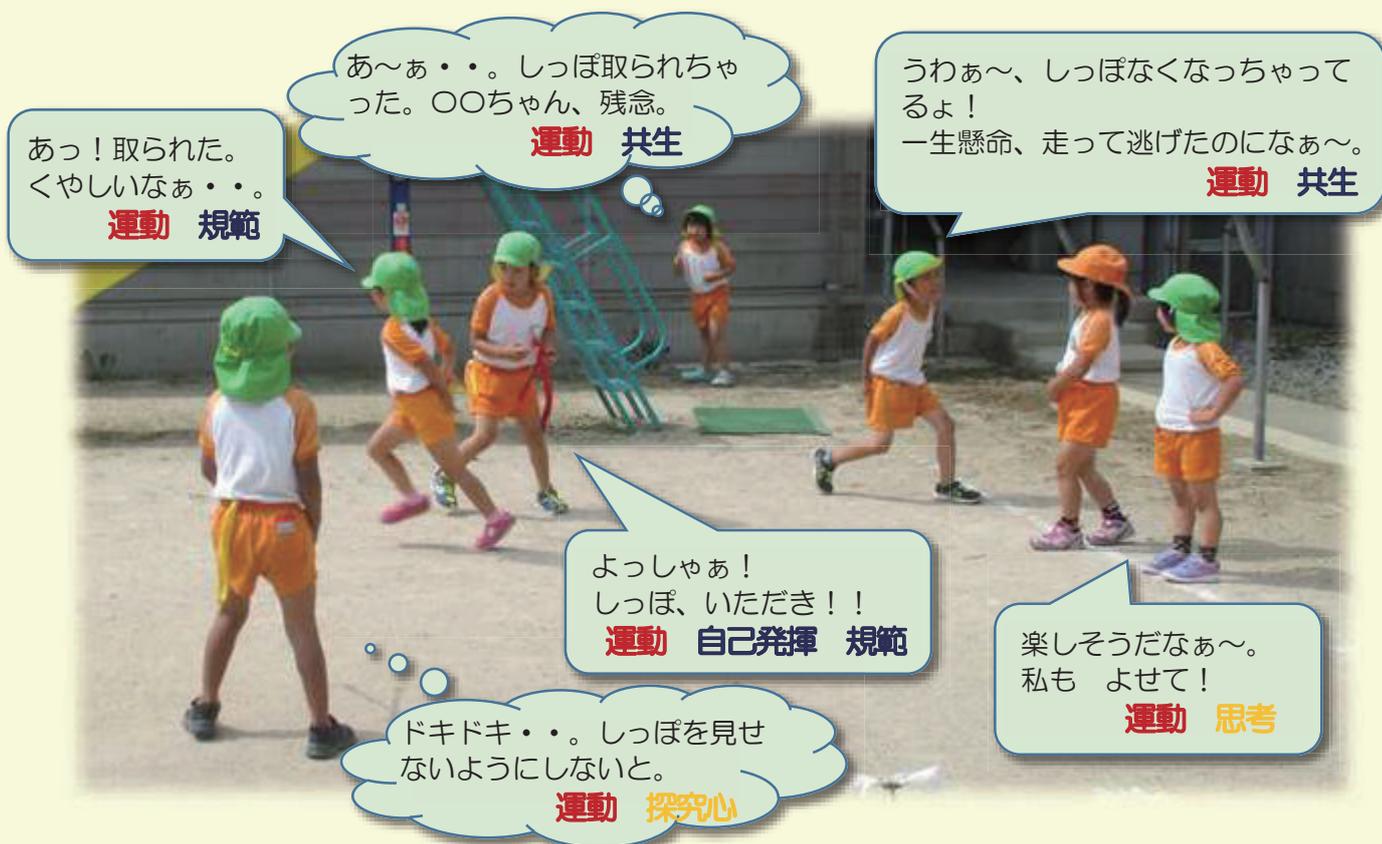
「遊び」を「学び」につなげる幼児教育

「遊び」は、幼児にふさわしい「学び」です。遊びを通して、子どもたちは、何に心を動かし、援助を行っているのでしょうか。「3つの力」と「10の視点」を基に、「遊びを通して育てたい

事例1:「鬼ごっこ～しっぽ取り～」(5歳児6月)

【遊びを通して育てたい力の例】

- ・ 友だちと一緒に、もっと遊びが楽しくなるように考える。 … 自己発揮
- ・ 友だちとルールについて話し合い、ルールを守って遊ぶ。 … 規範
- ・ トラブル発生時には、みんなで話し合っ解決しようとする。 … 共生 規範
- ・ 役に合った動きなど、相手の動きを見て工夫する。 … 思考 運動
- ・ しっぽが取られない工夫をしながら、遊びを続ける。 … 探究心
- ・ 危険を避けて、安全に遊ぼうとする。 … 安全
- ・ 運動量に応じて、適宜、休息をとる。 … 生活習慣



【保育者の援助例】

- ・ 子どもたちが思いっきり走ることができるスペースを確保する。
- ・ 子どもたちや遊びの様子を見ながら、必要に応じて全体で話し合う場面を設定する。
- ・ 遊びに入れないうちの子どもの背中をそっと押すような声掛けや仕草をする。
- ・ 危険な行為が見られたら、注意を促し、安全に遊べるように配慮する。
- ・ 子どものアイデアを取り上げ、子どもたちがお互いのよさを認め合うようにする。

い合う 「幼児教育を知ろう」

何に気付き、どのような力を身に付けているのでしょうか。そのために、保育者はどのような力)と(保育者の援助)について、事例を参考に考えてみます。

事例2:「大きな川をつくろう」(5歳児7月)

【遊びを通して育てたい力の例】

- 砂や水の感触を味わう。 … 自己発揮
- 友だちと目的を共有し、力を合わせて活動する。 … 共生
- 道具の貸し借りをしながら、仲良く遊ぶ。 … 規範
- 目的の実現に向けて、創造や工夫をする。 … 思考
- 砂や水の特性に気付く。 … 思考
- イメージを友だちに伝えたり、話を聞いたりする。 … 言葉・数
- 遊びの身支度や後始末をする。 … 生活習慣

ねえねえ、一緒に掘ろうか？ それとも、水をくんで来ようか？
共生

もっと、水くんで！
水がなくなってしまうよ〜。
共生 思考

裸足だから、足が濡れても大丈夫だね。
思考 生活習慣

そうだ！ こっちを掘って、もっともっと長い川にしよう！
思考 言葉・数

うわっ、気持ちいい！
もっと、水が流れてこないかなあ〜・・・。
自己発揮 共生

川になったら、水がいっぱい流れるねえ〜。
共生 言葉・数

【保育者の援助例】

- 遊びに必要な用具を、子どもに分かりやすく、使いやすいように準備する。
- 落ち着いた気持ちで遊び込める環境(日除け、砂の固さの調整等)を整える。
- 保育者も一緒に遊ぶことで、イメージを共有するとともに、子どもの気付きを拾い、広める。
- 子どもと一緒に片付けることで、片付けた後の心地よさや達成感を共に味わう。
- 明日の遊びにつながるような振り返りを行う。

全員が「分かった」「できた」を大切に する小学校教育

小学校教育では、学ぶべき内容や授業時数が学習指導要領で定められており、全国的な教育水準を保つために教科書を用いて授業を行います。授業時間は45分が基本であり、教員は、日々の授業を通して、「基礎的・基本的な学習内容の定着」と「自分で考え、表現する学習活動の充実」を目指し、子どもたちが「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」を実感できることを大切に、授業を行っています。

そのため、「どんな教材を用いれば子どもたちの興味・関心が高まるか」、「どんな展開をすれば学びが深まるか」、そして「どの程度力が身に付いたか」という視点で、子どもたちを指導・支援しています。

本県では、授業改善の推進を図るため、「岡山型学習指導のスタンダード」を作成し、45分の授業における「導入→展開→まとめ」で留意すべきことを「授業5（ファイブ）」として示し、このスタンダードに基づいた授業づくりに取り組んでいます。

また、学校教育とともに、家庭学習の充実にも取り組んでおり、「学習習慣の確立」と「生活習慣の改善」を目指し、「家庭学習のスタンダード」に基づいた取組を進めています。



幼児教育

「遊び」を「学び」につなげる

【子ども】

自分のしたい遊びを、自分で実現・達成する

【保育者】

- ・長期の指導計画を基に、週案、日案を作成し、幼児の願いに即した遊び込むことができる環境を構成
- ・子どもの主体性や個性を尊重した援助の実施
- ・「～を感じる」「～を楽しむ」「～を味わう」など、児童期以降の教育の方向付けを意識した保育を展開

合う「小学校教育を知ろう」

一単位時間の授業5(ファイブ)

①めあて(目標)を示す

○児童が、本時で何をどのように学ぶのかが分かるようにします。

③目標の達成度を確認する

○児童一人一人の目標が達成されているかどうかを把握し、達成状況に合わせた個別指導を行います。

導入

展開

終末

②自分で考え、表現する時間を確保する

○一人一人の児童が、めあてに対する自分の考えをもち、その考えを表現することができる方法を示します。
○考えを交流することで、考えを深めたり広げたりすることができるようにします。

④学習内容をまとめる

○本時で何を学んだのかが分かるように整理します。

⑤振り返りをする

○「分かったこと、できたこと、考えたこと」などを自分の言葉で書かせます。

小学校教育

全員が「分かった」「できた」と感じる授業づくりを目指す

【子ども】

教科書を使用し、教室等で授業を中心とした学習に取り組む

【教員】

- ・各教科、道徳、特別活動等の区別があり、年間指導計画に基づき、ねらいの達成を目指した授業を実践
- ・主体性や個性を尊重しつつ、学級単位の活動も重視
- ・「～することができる」など、学習指導要領における具体的な目標への到達を重視した授業を展開



ある小学校1年生の時間割と生活の様子

登校	8:10まで	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝学習	8:20 ～8:35	朝礼	漢字 プリント	読書	計算 プリント	漢字 プリント
朝の会	8:35 ～8:45	健康観察・今日の予定の確認・1分間スピーチ				
1時間目	8:45 ～9:30	国語	国語	国語	国語	国語
2時間目	9:40 ～10:25	体育	体育	体育	算数	算数
業間休み	10:25 ～10:45	しっかり身体を動かしましょう				
3時間目	10:45 ～11:30	算数	国語	算数	生活	図工
4時間目	11:40 ～12:25	音楽	道徳	学活	生活	図工
給食	12:25 ～13:05	感謝の気持ちをもって、みんなでおいしく食べましょう				
昼休み	13:05 ～13:30	元気いっぱい遊びましょう				
そうじ	13:30 ～13:45	みんなで学校をきれいにしましょう				
5時間目	13:55 ～14:40	国語	生活	音楽	国語	国語 (書写)
帰りの会	14:40 ～15:00	明日の予定の確認・「友だちのよいところ見付けたよ」の発表				

合う「小学校教育を知ろう」

● 落ち着いて学べる環境を整えます

めざせ！あいさつ日本一

爽やかなあいさつから、気持ちのよい一日が始まります。



くつをきれいにそろえます

落ち着いた学習環境づくりをめざして、全校で徹底して取り組みます。



掃除は熱心に行います

自分たちが生活する環境を自分たちで整えます。



● 確かな学力と豊かな心を育みます

友だちや先生と一緒に、いろいろなことを調べたり、考えたり、発表したりすることを通して、学ぶ姿勢も身に付けます。



ルールを学校で統一します。

～発表の仕方（例）～

- 1 声の大きさ・速さに気をつけます。
- 2 相手を見て話します。
- 3 「～です」「～ます」「～だと思えます」など、ていねいな言葉を使います。

● 健康の増進・体力の向上を図ります

友だちと和やかに食事をするを通して、毎日を健康でいきいきと生活できるようにします。



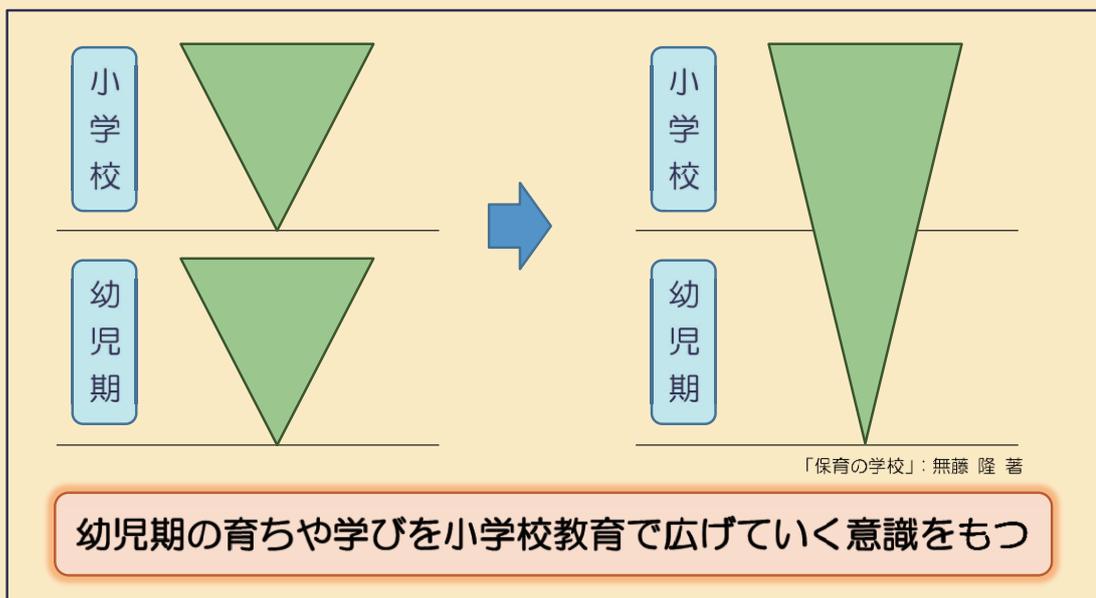
歯と口の健康づくりに取り組みます。



小学校側から保幼小連携の取組を進めましょう

小学校には、幼稚園、保育所、認定こども園など、公私立の様々な施設から子どもたちが入学してきます。

子ども一人一人の健やかな成長を目指し、幼児期の生活と学びを小学校へ円滑に接続するためには、小学校側から幼児教育側へ向けて、積極的な連携推進に当たっての取組を働きかけていくことが、今後ますます重要となります。



その際、入学してくる子どもが通っている全ての幼児教育を担う施設と「平等に交流をしなければならない」という考えから、「交流ができる施設とできることから連携を深めていく」という考えへ、発想を転換することが必要です。

学校全体での取組にしましょう

現在、保幼小交流活動において、「担当者の異動に伴い、継続が難しい」という課題がありますが、交流活動を充実させるためには、担当者だけでなく、接続期を大切にした教育・保育の充実を図るという意識を全教職員がもつ必要があります。

特に、小学校入学当初の時期は、小学校生活のスタートであり、その後の学校生活に大きな影響を与える時期です。この時期は、子どもたち一人一人の育ちや学びが多様であるため、個人差が大きく、一人一人の幼児期の教育や経験を踏まえた、きめ細かな指導が求められます。そのためにも、小学校は日頃から各施設としっかりと連携し、家庭環境を含めた育ちや学びを把握できる体制を構築しておくことが必要となります。

また、入学当初は、学年合同授業や異学年児童との交流活動、専科や養護教諭など複数の教員が新生を指導することで、小学校1年生の担任だけでなく、学校全体で新生に対する取組の充実を図っていくことが大切です。

つながいを深める

育ちや学びをつなげる保幼小連携に向けて

- ✦ 幼稚園、保育所、認定こども園などと協議しながら、接続を意識した年間指導計画を作成します。
- ✦ すでに実施している取組を基に、幼児と児童の交流活動、授業や保育参観、合同での研修会など、効果的な接続となるような工夫をします。
- ✦ 「親育ち応援学習プログラム」等の活用により、保護者の理解や協力を得て、小学校入学への不安を解消する取組を行います。

接続を意識した年間指導計画作成の例

1年生との交流			ポイント
月	活動名	場所	
4	【授業参観】 顔合わせ	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携担当者を決定します。 ・合同研修や交流活動を位置付けた年間指導計画を作成します。 ・現在の1年生の年間指導計画を基に、授業や行事を生かして、できることから交流を進めていきます。
5	【合同研修会】 「子どもの姿や指導のあり方について」	小学校	
6	【交流活動】 「〇〇ランドであそぼう」	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・共に意義のある活動となるように、保育や授業のねらいを事前に確認する。
7			<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に、保育体験や合同研修会を開催し、子どもとの関わり方や指導方法について理解を深めます。
8	【合同研修会】		

作成の Point!

- 授業参観や行事への参加の機会を生かして、日頃の子ども同士の交流を互いの年間指導計画に位置付けます。
- 子どもの見方や指導方法を共有するために、必ず授業参観や交流活動の事前・事後に打合せの時間を確保するよう計画に位置付けます。

交流活動の前後に打合せ会をもつことで、質の向上が図られます。



アプローチカリキュラム(幼稚園、保育所、認定こども園が作成)

幼児教育の最終段階である5歳児後半の子どもが、スムーズに小学校の生活や学習に適応できるようにするとともに、幼児期の学びを小学校教育につなげることを意識して作成するカリキュラムのことです。

作成に当たっては、小学校教育の先取りをするものではなく、就学を迎えるに当たっての幼児期にふさわしいものにします。各園・所の教育課程や保育課程が異なるため、保育活動も地域や子どもの実態に応じて異なります。そこで、育てたい力や重点課題に沿って、現在のカリキュラムを整理し、接続を見通した視点で接続期にふさわしくなるよう見直してみましょう。

アプローチカリキュラムの例

5歳児（1・2・3月）	
幼 児 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと一緒に必要なきまりを自分たちでつくり、友だち同士で教え合うなど、きまりを守って遊ぶようになる。 ・ 遊びの継続時間が長くなり、遊びにじっくりと取り組めるようになる。 ・ 卒園を意識し始め、卒園に向けての記念品づくりや卒園式に向けて、意見を出し合って、自分たちで必要なものをつくったり準備を進めたりするようになる。
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友だちと目的を共有し、保育者や友だちと相談しながら見通しをもって活動や遊びを進める。 ・ 目的や課題に向かい、根気強く取り組んだり、工夫したりしながら、やり遂げる喜びを味わう。 ・ 小学校入学に向けての期待感を高め、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、身近な人への感謝の気持ちをもつ。
環 境 の 構 成 と 教 師 の 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登降園時の活動や当番活動、昼食の準備や片付けなど、一日の生活の流れを意識して、自分から進んで取り組めるようにする。 ・ 卒園に向けて、幼児が思いを込めて記念品づくりや卒園式までの準備などに当たることができるよう計画し、園生活最後の時期を、充実感をもって過ごせるようにする。 ・ 小学校を見学したり、小学校の先生の話の聞いたりして、小学校入学への期待感と自覚を高めるようにする。 ・ 基本的な生活習慣を身に付け、自分で自分のことができるように、家庭と連絡を取りながら、子どもの育ちを確認する。 ・ 保護者会や個人面談などを行い、入学までの見通しを伝えるとともに、保護者の不安に対しては、小学校と連絡を取り合って対応できる体制を整える。

をつなげる

を作成しましょう

スタートカリキュラム(小学校が作成)

小学校入学直後の期間において、児童が幼児期に体験してきた遊び的要素と、生活科を始めとする小学校の教科学習の要素を組み合わせた合科的・関連的なプログラムを取り入れたカリキュラムのことで、意欲的に学習に取り組めるものにします。

その際、小学校1年生が、幼児期から引き続き「学びの基礎力の育成」の時期であることをしっかり踏まえ、子どもの育ちや特性、アプローチカリキュラムのねらいやそこで培われた力を理解した上で、各学校でねらいを明確にして作成し、育ちや学びの連続性・一貫性を図るようによみましょう。

スタートカリキュラム編成の手順

- 幼稚園、保育所、認定こども園と連携して作成しましょう。
- 学校全体での取組にし、保護者への適切な説明を行いましょう。

① 作成に当たっての準備をします。

- ・ 在校児童の心身の発達の段階や特性を把握する。
- ・ 新1年生の指導計画を、現在の1年生の学習状況等を基に改めて検討し、スタートカリキュラムとしての改善点を明らかにする。

② 入学当初に身に付けさせておきたい力を話し合います。

- ・ 入学してくる子どもの実態を把握する。
- ・ 小学校卒業時の児童の姿を見通し、入学当初に身に付けさせておきたい力や学習習慣、生活習慣を具体的に想定する。

③ どんな力をいつまでに身に付けさせるかを整理します。

- ・ ②で想定した力や習慣の優先度を明確にし、入学当初に重点的に身に付けさせたい力を設定する。
- ・ 身に付けさせたい力や習慣を定着させるスケジュールを明確にし、学校全体で見通しを共有する。

④ 指導内容と配列を決め、スタートカリキュラムを作成します。

- ・ 週案に位置付けるなど、週ごとのねらいを設定したり、1か月分の学校行事を日程表に位置付けたりして準備をする。
- ・ 各教科等の指導内容の関連、合科的・関連的な指導に配慮し、授業時数を配当する。

〇〇小学校 スタートカリキュラム

	4月8日(月)	4月9日(火)	4月10日(水)	4月11日(木)	4月12日(金)
ねらい	第1週「がっこうだいすき たのしい 〇〇小学校」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の生活や施設を知り、安心して生活する。 ・ 学校生活に必要なきまりや約束を覚えながら、楽しく安全に過ごす。 				
朝の会	あいさつ・健康観察				
朝学習		なかよくなるろうゲーム(学年合同)	みんなでうたおう(学年合同)	さわやかタイム(体操服への着替)	6年生による読み聞かせ(学年合同)
1	学級活動	生活・音楽(各0.5時間 学年合同) がっこうのことをしろう ・「ひらいたひらいた」「チューリップ」「ちょうちょ」を歌う。 ・学校の1日の流れを知る。 ・トイレの使い方を知る。	生活・音楽(各0.5時間 学年合同) うたでなかよし ・「かもつれっしゅ」で自己紹介をする。 ・「ぞうさんのさんぽ」「おつかいあいりさん」を歌う。	体育・生活(各0.5時間 学年合同) たのしくあそぼう ・総合遊具、砂場、ブランコ、すべり台などで遊ぶ。 ・校庭で友だちと遊ぶ。	児童会活動 1年生を迎える会 ・他学年と交流する。
	・健康観察 ・あいさつ、返事の練習 ・入学式についての説明を聞く。				
2	学校行事	国語・図工(各0.5時間) ぼく・わたしのしょうかい ・自分の似顔絵を描き、自己紹介をする。	算数・生活(各0.5時間) がっこうたんけん ・出席番号順の並び方、廊下の歩き方を知って、練習する。 ・学校を探検する。	図工(1時間) たのしかったよ ・遊んだことを絵に描く。	算数・国語(各0.5時間) みんなのせかい ・絵に描かれているものを見付ける。 ・見付けたことや想像したことを話す。
	入学式				
3	学級活動	学級活動	学校行事	道徳・国語(各0.5時間) きもちよい あいさつ ・相手や言葉遣いに気を付けたあいさつの仕方を話し合う。	学校行事
	・担任の名前を知る。 ・入学用品や配付物の確認 ・明日のことを聞く。 ・保護者への話	・帰りの会の準備をする。 ・安全な登下校の仕方について聞く。 ・元気よくあいさつをする。	交通教室 ・道路の歩き方、横断歩道の渡り方を知って、練習する。		身体計測 視力検査
4	下校指導	下校指導	下校指導	下校指導	下校指導
下校時刻	11:30	11:40	11:40	11:40	11:40

をつなげる

■ スタートカリキュラム作成に当たっての留意事項

- スタートカリキュラムは、週案の形で作成すると効果的な活用ができます。1年生の担任が替わっても、自校のスタートカリキュラムが分かり、活用できるようにしておくことが大切です。
- 合科的・関連的な指導を構想するに当たって、各教科等の学習内容や時期など、指導計画の全体像をつかんでおくと、合科的・関連的な指導が行いやすくなります。
- 事前に幼稚園や保育所、認定こども園から聞き取りをし、親しんだ歌や遊び等を取り入れることで心を安定させます。
- 第1週は、同じ幼稚園や保育所、認定こども園の友だちと一緒に安心して活動できるように、学年合同の活動を多く取り入れます。
- モジュール学習（10分、15分などの時間を単位として行う学習の形態）を積極的に取り入れ、子どもの実態に応じて、徐々に45分の授業に慣れるようにします。
- きまりやルールは、安全面に関するものから優先的に指導します。特に登下校中は、学校全体での協力体制を整えるようにします。
- 幼稚園や保育所、認定こども園での経験を生かし、「できる」という気持ちを大切に、安心感をもって活動や学習に参加できるよう配慮します。

■ スタートカリキュラムスタートブックを活用しましょう

国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成した、教員向けパンフレット「スタートカリキュラム スタートブック」は、小学校において、スタートカリキュラムの意義や編成・実施するに当たっての留意点等をまとめものです。本冊子も有効に活用しながら、子どもの実態に応じた各学校オリジナルのスタートカリキュラムを作成していきましょう。

やってみると、こんないいこと!

みんなが安心、みんなが育つ

安心

- 幼稚園・保育所等の生活に近い活動を取り入れるので、安心して学習に取り組むことができます
- 分かりやすく学びやすい環境を構築することで、安心して学習活動に取り組むことができます
- 安心や楽しさが生まれ、いわゆる小1プロブレムなどの予兆や解決にもつながります

成長

- 活動や体験を通して、学びに向かう力を育むことができます
- 安心して生活することで、自分のもっている力を発揮することができ、先生や友達に認められることで、自信や達成感が生まれます

自立

- 自分で考え、判断し行動できるようになり、子供の自立につながります
- 6年間の学びの基礎をしっかり身につけることができます
- 夢や目標をもち、前向きに生活していくことができます

1年生の担任にもいいこと!

- これまでの長方や指導観が変わり、教務力が高まります。
- 特別な教育的支援が必要な子供にとっても、効果的な取組となります。

学校にもいいこと!

- スタートカリキュラムを学校全体で取り組むことで、スムーズに小学校の生活に适应していく子供の姿が見られます。主体的に活動する子供の笑顔が溢れる学校になります。
- 6年間で経過した小学校教育全体の

保護者にもいいこと!

- 学校生活への不安が解消され、安心して学校に送ることができ、強力が身に付きます。
- 子供が自ら成長する姿を通して、保護者の満足度も高まります。

スタートカリキュラムに關して

スタートカリキュラムに關して、モジュールプランの発想や実践事例の配布など、普及のための取組を始めて3年目になります。その結果、本年夏のスタートカリキュラム実施率は100%となりました。それに伴い、いわゆる小1プロブレムが発生した学校の割合が、平成23年度19%、24年度12%、25年度10%と半減しました。こうした成果は、スタートカリキュラムの実践や入学前からの情報交換など、幼児教育と小学校教育をつなぐ取組によるものであると考えています。

スタートカリキュラムの授業を参照して

幼児期からの学びと育ちを大切にスタートカリキュラムは、誰で大切にできたことが小学校につながっていくのだからということが分かりました。子供は楽しさを感じながら取り組んで学んでいました。覚え込めではなく、自分から学んでいるように工夫していました。誰でも協力的な遊びを通じた協力的な指導を積極的に取り入れて、小学校でのスタートカリキュラムにつながりたいと思います。

子供にもいいこと!

- とっても配られたけど、学校って楽しいよ!
- 明日も学校に行きたいよ!
- みんなでいると楽しいよ!
- 友達がたくさんできたよ!
- 優しい先生がたくさんいるよ!

先生にもいいこと!

- 友達と力を合わせるといろいろなことができるよ!
- 一人でできるようになったよ!

みんなに向かって

- 自分に向かって頑張りたいよ!

保護者にもいいこと!

- 学校生活への不安が解消され、安心して学校に送ることができ、強力が身に付きます。
- 子供が自ら成長する姿を通して、保護者の満足度も高まります。

スタートカリキュラムの編成の仕方・進め方が分かる

スタートカリキュラム スタートブック

必携!

06

【参考】 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf

【参考】接続期に育てたい「3つの力」

小学校への入学準備期にも当たる接続期の教育・保育は、幼稚園、保育所、認定こども園の保育者と保護者が協力することで、更に充実していきます。この時期の子どもたちは、入学への期待に胸をふくらませ、「小学生になる」という自覚が芽生えています。

できていないことを無理に教え込んでさせるのではなく、子ども自身が気付いて、自分から進んでできるように環境を整え、しっかり援助していくことが大切です。



ももっち うらっち
岡山県マスコット

生活する力

外遊び



- 全身を使って遊ぶ。
- 自然にふれて遊ぶ。
- 身体を動かして遊ぶことを楽しむ。

食事



- 朝ご飯をしっかり食べる。
- 苦手なものも食べようとする。
- おはしを正しく使う。

睡眠



- 21時までには寝る。
- 十分な睡眠時間を確保する（9～10時間）。
- 朝、一人で起きる。

トイレ



- 自分でする。
（和式・洋式・小便器の使用）
- 起床後、家で大便をする。

着脱



- 衣服の着脱を自分でする。
- 脱いだ服をたたむ。
- 脱いだ靴をそろえる。

衛生・清潔



- 起床後、洗面をする。
- 遊びの後や帰宅後は、手洗い・うがいをする。
- 食事後は、歯磨きをする。

人とかわる力

友だち



- 友だちと一緒に楽しく遊んだり、粘り強く活動に取り組んだりする。
- 思いやりの気持ちをもつ。

あいさつ



- 自分からあいさつをする。
- 場に応じて、素直に「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。
- 名前を呼ばれたら返事をする。

自立



- 自分でできることは自分でする。
- 様々なことを自分から試したり、あきらめずに取り組んでみたりする。

規範



- きまりを守る。
- ものを大切に扱う。
- 自分がされて嫌なことや悪いと思うことはしない。

話す・聞く



- 自分の思いを相手に分かるように伝える。
- 相手に応じた言葉を使う。
- 話す人を見ながら聞く。
- 最後まで聞く。

姿勢



- よい姿勢を保つ。
- 椅子に正しく座る。
- 気をつけの姿勢で立つ。

学ぶ力

好奇心



- 動植物に親しみをもつ。
- 自然の不思議さや面白さに気付く。
- 五感をしっかり活用する。

つかう



- はさみやのり、クレヨンなどを使う。
- 使ったら元の場所に片付ける。

楽しむ



- 描いたり、書いたり、つくったりすることを楽しむ。
- 数量や図形、文字などに関心をもつ。

【参考】アンケート結果から見る幼児教育と小学校教育の連携の在り方

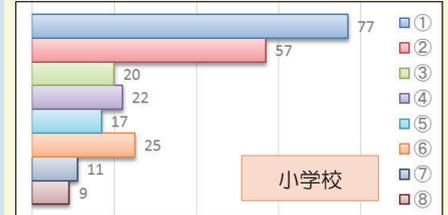
県教育委員会では、平成27年5月に、幼児教育と小学校教育の連携に関する実態を把握するため、県内207の幼稚園、保育所、認定こども園と公立小学校にアンケートを実施しました。

Q 小学校教育の指導で、特に困っていること

- ① マイペースや自分勝手に行動するなど、皆と一緒にの行動が取りにくい
- ② コミュニケーションに課題があり、教師や友だちとうまく関われない
- ③ 着替えや持ち物の整頓など、身の回りのことが自分でできない
- ④ 習得している知識や、学習への理解が均一でない
- ⑤ 45分間席について学習することができず、教室内を立ち歩くことがある
- ⑥ 食べ物の好き嫌いが激しく、時間内に給食を食べ終えることができない
- ⑦ きまりやルールを守ろうとする意識が低い
- ⑧ 保護者の子どもへの関心が低く、コミュニケーションを図ることが難しい

【回答対象者】

- ・園長及び5歳児担任
- ・校長又は教務主任及び1年担任



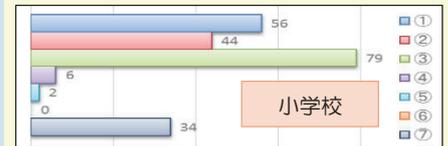
Q 就学前の時期（5歳児3学期）までに、幼稚園・保育所・認定こども園で、子どもに身に付けさせておくべき資質

- ① 挨拶や返事がしっかりできること
- ② 自分のしたいことや必要なことなどを、言葉で伝えることができること
- ③ 先生や友だちの話を、しっかりと聞くことができること
- ④ 着替えや持ち物の整頓など、身の回りのことが自分でできちんとできること
- ⑤ ひらがなが読めたり、自分の名前が書けたりすることができること
- ⑥ 一定時間（30分程度）、静かに椅子に座ることができること
- ⑦ 意欲的に新しいことを吸収しようとする姿勢をもつことができること
- ⑧ 好き嫌いをしないで、一定の時間内に食事を終えることができること
- ⑨ 決められたきまりやルールを守ることができること



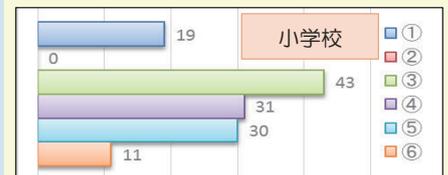
Q 幼稚園・保育所・認定こども園との交流や連携で障害となるもの

- ① 小学校の時間割が、園児の生活時間と合わないこと
- ② 園と小学校の距離に伴う安全面や移動時間を保証すること
- ③ 担当者との打合せの時間を確保すること
- ④ 年度末の人事異動等により、交流や連携が引き継いでもらえないこと
- ⑤ 互いの教育内容・教育方法を理解すること
- ⑥ 交流の誘いに対して、相手側が連携に積極的でないこと
- ⑦ 人的余裕がないこと



Q 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携のポイントとして最も重要なこと

- ① 互いの教育内容や指導方法について理解を深めること
- ② 保護者同士の交流を図るための合同行事を開催すること
- ③ 保育者と教員が、幼児教育と小学校教育の接続に関する合同研修会を行うこと
- ④ 幼児と児童が交流できる機会を設けること
- ⑤ 保育者と教員が日常的に行き来できる環境を整備し、仲良くなること
- ⑥ 授業参観・研究授業等も含めた行事の実施や学校園だよりなどの情報を交換すること



【参考文献等】

- 「幼稚園教育要領」文部科学省（2008）
- 「保育所保育指針」厚生労働省（2008）
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省（2014）
- 「小学校学習指導要領」文部科学省（2008）
- 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（2010）
- 「育ちと学びをつなげる幼小連携」チャイルド社 木下光二著（2011）
- 「『接続期プログラム』～幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して～」埼玉県教育委員会（2012）
- 「福井県保幼小接続プログラム『学びをつなぐ希望のバトンカリキュラムー学びに向かう力をはぐくむー』
福井県幼児教育支援センター（2015）

おわりに

公立・私立、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校という既成の枠を越えて、幼児教育と小学校のつながりが、お互いを分かり合う「連携」から、子どもの育ちと学びをつなげる「接続」に深化するには、子どもの姿や現場の方々の願いに沿う「カリキュラム」と「研修」が“車の両輪”になって動き出すことが大切です。

また、特別な支援を必要とする子どもについては、個別の教育支援計画等を活用し、確実な引き継ぎを行うことが必要です。

県教育委員会も市町村との連携を一層深め、就学前教育スーパーバイザー等の支援により、子どもに関わる様々な立場の方々が共に学び合えるようサポートをしていきます。

保育や教育に関わる方々の思いや願いの下、子どもたち一人一人の豊かな育ちにつながるよう協働していただく際に、本スタンダードが役立てばと願っています。



【写真・事例提供園・校】

- 真庭市立天津幼稚園
真庭市立落合ひまわり保育園
真庭市立天津小学校
- 高梁市立落合幼稚園
社会福祉法人梁和会落合保育園
高梁市立落合小学校

【授業参観シート】



○ 本時のねらい

○ 授業参観の視点

項目	内 容		✓
学習環境	1	教室の整理・整頓ができています。	
	2	授業の開始時、終了時にあいさつができています。	
	3	児童は、授業の準備（教科書など）ができています。	
	4	学級に、安心して授業を受けることができる雰囲気がある。	
	5	学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど）が徹底しています。	
	6	児童は、授業に主体的に参加しています。	
	7	支援や配慮が必要な児童へ適切な対応を行っている。	
基本的な指導技術	1	授業の時間配分がうまくできています。	
	2	声の大きさが適切で聞き取りやすい。	
	3	指示や説明が明確で分かりやすい。	
	4	分かりやすい板書の工夫ができています。	
	5	机間指導を行い、個別に指導助言を行っている。	
	6	適切に授業のまとめをしている。	
	7	児童の学習状況を評価している。	
指導方法の工夫	1	授業の導入の工夫をしている。	
	2	学ぶ意欲を高める教材・教具の工夫をしている。	
	3	多様な考え方につながる発問をしている。	
	4	児童が、考えを書いたり、発表したりする場面を設定している。	
	5	習熟度別少人数授業等、個に応じた指導の工夫をしている。	
	6	児童の発表や説明に対して、適切に指導している。	
	7	ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫をしている。	

○ 参考になった点など



【保育参観シート】



○ 遊びのねらい

○ 注目した遊びの場面（どこで、誰と、何を、どのような用具を使ってなど）

○ 注目した子どもの様子・発言

○ その場面での保育者の援助の様子（声かけ、遊びの準備など）

○ 参考になった点など

